

# 旧大倉小学校 跡地利用 (案)

【大倉小学校跡施設利活用検討委員会】

# 1. 施設の現状と課題（1）

## その1 【施設の老朽化】

校舎及び体育館は建設後45年が経過し、壁の剥がれや雨漏りが酷い状況であり、多額の費用をかけて改修しても使用期間は限られることから、現施設を利活用することは現実的ではない。

## その2 【指定避難所としての適性】

敷地のほとんどが「土砂災害警戒区域」に指定されており、体育館に安全に避難できるルートも整備されていない。

大雨時には校舎側は使用できないため、感染症対策や体調不良者の受入れも困難であり、指定避難所として使用し続けることは課題が多い。

# 1. 施設の現状と課題（2）

## その3 【民間による利活用】

学校跡地を利用する場合、建築制限があることから、民間事業者による土地の利活用も困難である。

- 「市街化調整区域」により開発許可が必要
- 敷地の約半分は大倉ダム敷地による「河川区域」
- 敷地の約4割は「土砂災害警戒区域」

このまま荒廃していく廃校施設を残しておくことは・・・

- ◇地区の避難施設の課題が置き去りに！
- ◇定義如来を抱える観光地としてのイメージに影響

↓ したがって・・・

廃校施設の早期解体により、地域防災の課題解決と地域資源を有効活用した市民利用施設の整備が望ましい。

## 2. 旧大倉小学校の跡地利用の方向性

### キーワード その1

### ～課題解決と地域資源の有効活用～

市民利用施設の整備により、地域防災の課題を解決し、地域の資源を有効活用することで、「観光地大倉」の更なる振興と発展を図る。

### キーワード その2

### ～子ども達による活気の再生～

大倉小学校の廃校により、子ども達による賑わいが失われたが、多くの家族連れや子ども達の笑顔を創出することで、地区全体の活気を取り戻す。

### 3. 地域資源の現状

大倉地区は仙台市中心部より短時間で移動でき、雄大な自然や観光施設などの地域資源が豊富である。

定義如来

大倉ダム

大倉ふるさとセンター

大倉ダム湖畔公園

#### 課題

- 大倉ダムには見学施設はなく、大倉ふるさとセンターも生涯学習施設の性格から、気軽に立ち寄り楽しむ機能を備えていない。
- 大倉ダム湖畔公園も施設が充実していないため、ダムの湖畔に立地する公園としての魅力が足りない。
- 観光客のほとんどは、定義参拝の行き帰りに地区内を素通りしている現状にある。

## 4. 大倉ダム湖畔公園の有効活用

広大な敷地を有しながら、家族連れが立ち寄り遊べる機能が少ないため、ダム湖畔公園としての魅力が十分に活かされていない。

仙台市には、東部の海岸公園に「冒険広場」が設置されているが、他の自治体と比較し、市内には子どもが自由に体験できる公園が少ない。



このことから・・・

仙台市西部（大倉地区）にダム湖や自然を活かした冒険広場やスポーツ・レクリエーション機能を備えた公園があれば、定義如来と併せて多くの賑わいが期待できる。

## 5. 学校跡地と湖畔公園の一体整備

旧大倉小学校の跡地利用については、単独整備ではなく、隣接する大倉ダム湖畔公園と一体で再整備することで、地域資源の有効活用を図ることができる。



- 市民の憩い、交流の場
- 冒険広場設置による子どもの遊び場
- 学校グラウンドを活用したコミュニティスポーツ広場

観光資源の再整備により賑わいを創出

## 6. 想定する施設の概要 (1)





## 6. 想定する施設の概要（2）

### 管理センター

#### 施設管理エリア

事務室、トイレ、機械室など

#### 市民利用エリア

展示室（大倉の歴史、自然紹介、ダム建設史、大倉小学校の思い出など）



#### 地域利用エリア

コミュニティースペース、避難ホール、防災倉庫など



大倉地区の新しい避難施設として利用  
(指定避難所)

## 7. 参考

### (事例) 東根市「ひがしねあそびあランド」



年間利用者35万人、東根市の指定管理により地元NPO法人が運営。大倉小学校跡地施設についても、地元NPO法人であるグリーンライフ東北が受託し、大倉ふるさとセンターと一体的な管理運営を行うことで、市民サービスと地域振興に一層寄与できるものとする。

### スポーツ・レクリエーション

